

評価者	環境部長	能條 裕子
-----	------	-------

◎ 評価対象分野・施策の方針・目標とすべきまちの姿

総合計画上の位置付け	分野	生活環境	施策の方針	野生鳥獣等への対応
目標とすべきまちの姿	法令等に基づく規制や啓発活動及び防除実施計画による捕獲等の推進により、生態系の攪乱が懸念される有害外来動物の個体数が減少し被害が低減するなど、鎌倉の生態系を守る取組が進められています。			

1 市民意識調査結果

(1) 認知度(回答者全体に占める割合)

取組を知らない・わからないと答えた人の割合	令和元年度(2019年度)	20.3%	平成30年度(2018年度)	15.2%	平成29年度(2017年度)	17.9%
	平成28年度(2016年度)	14.7%	平成27年度(2015年度)	17.7%		

(2) 妥当性

令和元年度(2019年度)

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	1.1%	1.1%	0.2%
ちょうどよい	2.4%	45.4%	1.1%
効果不十分	1.9%	5.9%	15.0%

仕事の効果

全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

平成30年度(2018年度)

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	1.2%	0.8%	0.3%
ちょうどよい	1.8%	47.4%	1.8%
効果不十分	2.6%	6.0%	17.4%

仕事の効果

全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

平成29年度(2017年度)

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	0.7%	0.7%	0.0%
ちょうどよい	1.4%	48.7%	1.4%
効果不十分	2.8%	7.9%	14.4%

仕事の効果

全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

平成28年度(2016年度)

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	0.5%	2.3%	0.4%
ちょうどよい	1.1%	48.1%	0.9%
効果不十分	0.9%	6.7%	19.0%

仕事の効果

全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

平成27年度(2015年度)

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	0.4%	1.0%	0.4%
ちょうどよい	1.4%	47.8%	0.9%
効果不十分	3.7%	6.7%	14.9%

仕事の効果

全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

(3) 今後の進め方

	もっと力を入れるべき	現状のままで良い	力を入れなくて良い	無回答
令和元年度(2019年度)	26.4%	45.1%	2.7%	25.8%
平成30年度(2018年度)	28.1%	48.8%	3.3%	19.8%
平成29年度(2017年度)	26.5%	49.4%	1.8%	22.3%
平成28年度(2016年度)	29.8%	48.5%	2.0%	19.7%
平成27年度(2015年度)	24.6%	50.5%	1.9%	23.0%

2 内部評価

(1) 令和元年度(2019年度)の目標

<p>① 神奈川県獣医師会、湘南獣医師会及び関係機関等と連携し、狂犬病予防注射接種率の向上、犬の適正な登録の推進、飼育者マナー向上を図るため、周知・啓発活動を推進する。(環境-16)</p> <p>② 飼い主のいない猫の不適切な餌やり等による糞尿や繁殖等への対策を地域住民が担う地域猫対策について、鎌倉保健福祉事務所及び関係団体と連携し取組を進めていく。(環境-16)</p> <p>③ 有害外来動物については、外来生物法による防除実施計画に基づき、近隣市町と連携を図り、被害の防止を推進し、在来種の保護等を図る生態系の保全に努めていく。(環境-17)</p>
--

(2) 目標とすべきまちの姿と令和元年度(2019年度)の目標との関連性

<p>① 狂犬病予防注射の接種及び犬の適正な登録を通じて、ペットの適正飼育を促進することにより、地域の生活環境の保全が図られる。(環境-16)</p> <p>② 地域猫対策を通じて動物愛護の推進と向上を促進することにより、地域の生活環境の保全が図られる。(環境-16)</p> <p>③ 有害外来動物の防除を実施することにより、有害外来動物が家屋等へ侵入して騒音や悪臭を発生させる生活環境への被害等の防止、有害外来動物による生物の多様性を阻害する生態系への被害の防止が図られる。(環境-17)</p>
--

(3) 事業評価結果一覧表(網掛けは重点事業)

評価対象事業名		決算値(千円)		職員数(人)		法定受託 事務	今後の 方向性	
整理番号	事業名	令和元年度 (2019年度)	平成30年度 (2018年度)	令和元 年度 (2019 年度)	平成 30年度 (2018年 度)		事業内容	予算規模
環境-16	動物愛護推進事業	6373	5650	2	1.5	無	b	B
環境-17	鳥獣保護管理対策事業	8843	10153	2	1.5	無	b	B

(4) 主な実施内容

<p>【主な実施内容】</p> <p>① 犬の鑑札及び狂犬病予防注射済票の交付事務を実施した。(環境-16)</p> <p>① 狂犬病予防注射の接種率向上のため、狂犬病予防定期集合注射を神奈川県獣医師会と協働で実施した。(環境-16)</p> <p>① 犬の適正な登録を推進するため、広報かまくら等で周知するとともに、動物病院と連携して来院の際に犬の登録手続きの説明を行い、未登録犬の解消に努めた。(環境-16)</p> <p>① 犬・猫の飼育マナー向上のため、広報かまくらへの啓発記事の掲載、犬・猫のフン放置防止プレートの配付を行った。また、鎌倉保健福祉事務所と連携し、犬・猫の苦情相談への対応や海岸での犬の放し飼い防止パトロールを実施した。(環境-16)</p> <p>①、② 盗難、迷子、災害等により逸走した犬・猫を飼い主へ早期返還するため、マイクロチップの装着を推進する事業を実施した。(環境-16)</p> <p>② 飼い主のいない猫の増殖により生活環境が損なわれることを防止するため、不妊去勢手術費の一部を助成した。(環境-16)</p> <p>③ 生態系の保全を図るため、在来種の傷病野生鳥獣の保護捕獲を行い、神奈川県指定収容施設へ搬送した。(環境-17)</p> <p>③ アライグマ、ハクビシン、タイワンリスなどの有害外来動物による生態系、生活環境への被害を防止するため、野生動物への餌付け行為に対する注意喚起、有害外来動物に係る被害の実態調査、有害外来動物の捕獲の許可等を行った。(環境-17)</p> <p>③ 捕獲した有害外来動物を適正に処分するため、専門事業者へ処分業務を委託した。(環境-17)</p> <p>【実施できなかった事業とその理由等】</p>

(5) 令和元年度(2019年度)の取組の評価

効率性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか	■ 適切 □ 要改善
妥当性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当(適切)な取組であったか	■ 適切 □ 要改善
有効性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な成果が得られていたか	■ 適切 □ 要改善
公平性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか	■ 適切 □ 要改善

<上記評価の理由、改善を要する点の具体的内容等>

①動物病院等と連携して来院の際に犬の登録手続きを説明することにより、犬の適正登録を促進することができた。(環境-16)

①狂犬病予防注射未接種犬の所有者に対して、個別に接種勧奨を通知した。(環境-16)

①鎌倉保健福祉事務所と連携し、ペット飼育に関する苦情相談対応に取り組み、飼育マナーの向上を図った。(環境-16)

②猫の不妊去勢手術費の一部を助成し、飼い主のいない猫の繁殖を抑制した。(環境-16)

③市民からの通報等に基づき、在来種の傷病野生鳥獣を神奈川県指定収容施設へ搬送し保護した。(環境-17)

③アライグマ、ハクビシン、タイワンリス等の有害外来動物による生態系、生活環境等の被害防止に係る説明・指導を行った。(環境-17)

③有害外来動物の捕獲許可を行い、捕獲した動物を適正に処分した。(環境-17)

3 主な事業における指標(目標ごとに1つ設定)

整理番号	環境-16	事業名	動物愛護推進事業							備考	
指標の内容	登録されている犬の狂犬病予防注射接種率						単位	%	指標の傾向	↘	
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)				
登録されている犬の狂犬病予防注射接種率の向上を目指す各施策の効果を測るため	目標値	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0				
	実績値	77.7	77.0	77.0	73.7	74.8	72.8				
	達成率	77.7%	77.0%	77.0%	73.7%	74.8%	72.8%				

整理番号	環境-17	事業名	鳥獣保護管理対策事業							備考	
指標の内容	タイワンリス捕獲数						単位	頭	指標の傾向	⇒	
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)				
有害外来動物として具体的な把握が可能であるため	目標値	380	800	800	900	900	900			平成30年度は一過性の増加であるため令和元年度は目標値を据置	
	実績値	750	990	978	747	1,571	955				
	達成率	197.4%	123.8%	122.3%	83.0%	174.6%	106.1%				